

パブリックコメント手続きの実施結果について

案件名	第四次伊東市保健計画（案）
募集期間	令和5年12月25日から令和6年1月25日
担当課	健康福祉部健康推進課
意見提出者等	1人・3件

「第四次伊東市保健計画（案）」に対していただいたご意見及び市の考え方

受付番号	頁	意見内容	市の考え方
1	30～31 59	<p>「身体活動・運動」および「自然に健康になれる環境づくり」について、それらの予防や死亡リスク低減には、ウォーキングが重要であると考えます。</p> <p>実際に、ウォーキングの健康に対する効果については、様々な証拠が蓄積しています。8000歩/日が目標とされます。</p> <p>そこで、より積極的な取組を推進するために、日々のウォーキングの歩数を、市が行う健康マイレージの要素として組み入れることを提案しています。岡山市では、ウォーキングをマイレージに組み入れたことで、ウォーキング体験者の医療費の抑制につながったという報道を目にしました。</p>	<p>現在、本市が実施する「健康マイレージ事業」では、健康診断や各種検診の受診者、健康づくり教室への参加などのほか、健康づくりにつながる社会貢献活動等によりポイントが加算され、ポイントの上位者に商品を贈呈し、健康づくりのきっかけとなるよう取組んでいます。</p> <p>また、静岡県では「ふじのくに健康いきいきマイレージ事業」が実施されており、ご提案のような日々のウォーキングの目標を自分で設定し取組むことで、協力店での様々な優待サービスが受けられ、さらに、健康マイレージのポイントも加算されるようになっております。</p> <p>そのため、引き続き、それぞれのマイレージ事業の周知に努め、市民の健康意識の向上と健康寿命の延伸を図ってまいります。</p>
1	73～	<p>6章食育推進計画に対しての意見・提案です。</p> <p>町全体の食との密接な関係を表す、エディブルシティ(edible city)、という言葉を知りました。その流れで、長野市立長野中学では、学校菜園を推進することで、子供の心と身体を育てゆく取り組みがなされているそうです。</p> <p>そのようなことを伊東市でも行うことで、食育が推進される可能性が考えられます。</p>	<p>伊東市の公立幼稚園・保育園では、野菜等の栽培・収穫体験を計画し、食べ物に興味関心を持てるよう取組んでいます。小中学校でも、農協・漁協と連携した取組で、農業・漁業に関して一層の理解を深めています。</p> <p>さらに、毎年、「野菜料理レシピコンテスト」を開催し、子どもたちが考案したレシピを学校給食のメニューに取り入れるなど、子どもたちの心と体を育む事業も行われており、引き続き子どもたちの食育の推進に向け取組んでまいります。</p>

1	73～	<p>近年、自閉症などの発達障害を発症する児童の割合が増加しています。その要因としては、遺伝的なものも無関係ではありませんが、環境の要因が主であると考えられています。</p> <p>そこで、学校給食に無農薬（オーガニック）食材をできるだけ使用することが重要であると考えます。</p> <p>次に、栄養素の中で、日本人で最も不足するものは、全粒穀物です（食物繊維やビタミンB群が豊富です）。その意味から、玄米や全粒パンなどを積極的に食する必要性が指摘されています。また、よい腸内細菌叢の形成には、繊維の豊富な野菜や果物などもよく摂取する必要があります。</p> <p>よって、無農薬栽培の全粒穀物や野菜などを学校給食に使用することが食育には必要であると考えます。</p>	<p>学校給食に無農薬（オーガニック）食材を使用することについては、食材の供給量が非常に少ないことから、学校給食への導入には至っておりません。学校給食は大量調理のため、食材の安定供給が第一であり、保護者からお預かりした給食費の範囲で運営することから、価格面も重視しなければなりません。本市でも無農薬（オーガニック）とまではいかないものの、食育の観点から地産地消を推進し、地元野菜をできるだけ使用するなど、新鮮な野菜を使用するよう取組んでおります。</p> <p>また、玄米や全粒粉の全粒穀物は、食物繊維やビタミンB群を豊富に含んでいることが知られておりますが、本市の学校給食の摂取栄養価は、食物繊維もビタミンB群も、文部科学省の学校給食の摂取基準を上回っており、現状でも十分な栄養価であると思っておりますが、今後は、全粒穀物のメリットを生かすための献立の工夫を検討してまいります。引き続き需要と供給、価格面、栄養価、国の指針などを含めて使用可能な食材について様々な角度から検討してまいります。</p>
---	-----	--	--